

## 教養コース ④ 国際社会学

### 混迷の中東を読み解く

## 第五回

# コロナ禍と中東の変動

—講師 清水 学氏

日 時	2020年9月26日（土）10:00～12:00
場 所	鶴瀬公民館 第三集会室
講 師	尾崎 清水 学氏 (元アジア経済研究所研究員・元帝京大教授)
受講者数	15人

清水先生の最終講はメディア、特に現地にいる記者についてから始まる。

取材記者の現地語学力、一般常識が重要である。欧米出身者などでは、中東への偏見というバイヤスがかかり記事の内容が変わり勝ち。

それもあってメディアから伝わり難くされている。また日本語での記事では現地の反応を引かない。カタールのアルジャジーラの報道例。という興味深い話でした。

中東の地図上の国々を紹介していただきながら、多様で、ひとくくりには出来ない広大な中東地域を見ました。ペルシア語圏、トルコ語圏など多くの国々に共通するものがある。かつてはイラン、レバノン、エジプト、モロッコなどがアラブを主導していたが現状はどうか。合わせて北アフリカの略図も参照。



本日の主たるテーマは現段階の中東世界を理解するために

1. アラブ世界での政治的指導権の移転（前回の補足）
2. 今後予想される中東産油国を取り巻く厳しい状況
3. イスラーム復興と政治運動との関係
4. 宗教と政治 パレスチナから視点を変えてみるレバノンの事例から
5. グローバルな危機と中東地域 アメリカ大統領選挙に中東地域が絡む

## 講義

### アラブ世界での政治的指導権の移転について

イラク 湾岸戦争

シリア 「アラブの春」民主化運動を弾圧、現在も政府軍による民衆への攻撃、虐殺が続き、難民化。

エジプト 経済的困難による地位の低下により政治的指導権の著しい低下。政治的主導権が湾岸に移転。イラン・イラク戦争後湾岸で名称の定着。

アラブ産油国を取り巻く不安定化

2030年計画 石油からの脱却、ポスト石油時代への対応は「待ったなし」

14世紀の偉大なイブン・ハルドゥーン著「歴史序説」一読に値する(岩波文庫) 王朝盛衰論、安定化しない王位継承のルールについて書かれている。

中東における宗教と政治 社会集団の単位

- ・民族意識と宗派意識
- ・所謂、原理主義 「聖書」「クルアーン」(コーラン)
- ・ユダヤ教 聖書(旧約)の「ヨシュア記」

レジメの「ヨシュア記」について詳細な説明があった。イスラエルが領土を地中海まで拡張する根拠にしている。

### イスラーム復興と政治運動の関係

#### ●イスラーム教復興主義のプロセス (1)

1960年代まで「世俗主義」

1970年代 第3次中東戦争で敗北「イスラーム回帰」

1971年 イスラーム革命の衝撃 イランが180度変化世俗国からイスラーム体制に。伝統的な「ハマース」の登場。カントリーリスク

イスラームと政治体制

- ・今、サウジアラビアで起きていること

イスラームから世俗主義へ移行か。映画館建築とハリウッド映画公開、女性の車の運転

を許可

- ・エジプト

「ムスリム同胞団」が選挙で圧勝したが、軍事クーデターでつぶす。

UAE（アラブ首長国連邦）の全面的な支援によるものだった。

今日ではこの事実を認めている。

## ●イスラーム復興のプロセス（2）

- ・「ムスリム同胞団」（1928年結成）及びそこから発生した「急進派」の登場。

・レバノンでのヒズボラー（1982年結成）は議会で議席を獲得、社会福祉団体であり、かつ民兵組織を有する。イスラエル軍はヒズボラーとの交戦では苦戦している。

コロナ禍に医療・社会福祉的な支援を行っている。

・第1次インテイクファダ（民衆蜂起）の最中にガザの「ムスリム同胞団」支部を母体に1987年に「ハマース」を結成。結成当初は、世俗的傾向の強いパレスチナ解放機構PLOと対抗させるためにイスラエル当局の支援を受ける。

## ●イスラーム運動の「多様性」

・一部「過激派」勢力のテロ組織化、暴力化、クルアーン（コーラン）解釈の狭隘化、教条化

・「アル・カーイダ」から「IS（イスラーム国）」へ

・過激化や暴力化は、反イスラーム勢力にとっては「イスラームフォビア（イスラーム嫌悪）」感情を国際的に拡大するのに有利な条件。

・様々な運動を判断するには資金の提供者、政治的な効果を客観的に見る必要がある。

9・11を起こしたことになっているアル・カーイダは、サウジアラビアが資金を提供していた。常に、カネの流れを追うこと。

イスラームのいくつかの特徴

「クレアーン」（コーラン）の特徴

無条件の「平和主義」ではなく、侵略や不正義の押し付けには戦うことを辞さない。

クルアーン（コーラン）の特徴

ムスリム世界をつなげるアラビア語とアラビア文字

中国回族、特に女性同士での手紙の例で、習得していない難しい漢字を使うよりアラビア文字を使用した方が便利。日常的にコーランを唱えることで文字を覚え、生活の一部になっている。簡単な会話も通じやすい。

ユーラシア大陸の東西の「同時代性」 歴史的な符合がみられる。

中休みの終わりに、先生提供のコーランのコピーを参照。

装飾的にも美しい装丁、文字を見ながら、先生がホワイトボードにアラビア文字で数字や先生の名前を書いてくださいました。

#### 宗教と政治：レバノンの事例から（１）（２）

現段階の中東危機の集中的な地域の一つ

- ・ 18 の宗派が公認されている。
- ・ アラブ世界で日曜日が休日（もう一つはチュニジア）で、背景にキリスト教徒が多いためか。
- ・ 1932年から国勢調査がない。宗派別人口を明らかにしたくない。
- ・ 宗派と政治を結びつける「紳士協定」宗派による権限配分。大統領、首相、国会議長を宗派により決めている。
- ・ フランスとの特殊な関係　オスマン帝国とフランス
- ・ 「アラブ民族主義」の発生は 19 世紀のシリア・レバノンのキリスト教徒の思想家たちの間からイデオロギー化した。
- ・ 2019年に始まる民主化要求デモ　経済状況の悪化
- ・ かつて「中東のパリ」と呼ばれたが、アラブで初めての債務返済危機（モラトリアム）
- ・ コロナ禍とベイルート大爆破事故でさらに苦境に
- ・ 湾岸産油国の状況、シリアの動向がレバノンに直結



再度パレスチナ問題を考える

第1次インティファダ　ガザ「ムスリム同胞団」にPLOと敵対させるためイスラエルが資金援助をしたが、のちにイスラエルと対抗。

反シオニズムについて

## 「ユダヤの国」イスラエルにおける多様な「民族」的風景

- ・住民の多層的構成
  - (1) ユダヤ人欧州系ユダヤ人 72%
  - (2) 先住のパレスチナ人を含むアラブなど中東系、スペイン系 25%
  - (3) その他 インド系、黒人系(エチオピア)、中国系など 3%
- ・ユダヤ人の間でもシオニストと反シオニストに分かれる。
- ・宗教はムスリム(イスラーム教徒)、キリスト教徒、ユダヤ教徒
- ・欧州系ユダヤ人が優越で、占領地のパレスチナ人を含め差別がある。

## 再度パレスチナ問題を考える

- ・イスラエルによる独特な植民地主義 住民はいらない。
- ・ユダヤ人国家の意味 パレスチナ人は二級市民か。
- ・マハートマ・ガンジーのシオニズム論 イスラエルを認めなかった
- ・クリスチャン矢内原忠雄 イスラエルを理想的植民地主義
- ・一韓国人研究者の発表 イスラエルの危険性指摘
- ・中東・イスラーム世界の深層底流としてのパレスチナ問題  
貧困とパレスチナ問題がどう繋がっていくのか。

イスラエルとの国交正常化は国レベルの話で、それに対して一般大衆の動きが予測できない。

## グローバルな危機を促進する中東

### 質疑応答

- ・石油産油国は地球温暖化への運動に対し、どう考えているのか。
- ・アメリカ大統領選挙後にパレスチナ政策は変化するのか。

### 参考文献の紹介

ヤコブ・M・ラブ金(菅野健治訳)「イスラエルとは何か」平凡社新書  
ルーホッラー・ホメイニ「我が闘争宣言」(清水学訳)ダイヤモンド社  
松本清張「火の路」

